

# 陰部にかゆみ…性交痛も



数年前から陰部が委縮しかゆみが伴います。ほてりも強く、性交痛で夫婦生活ができず困っています。何らかの治療法はあるのでしょうか。

(茨城・64歳主婦)

小山 嵩夫 たかお

小山嵩夫クリニック院長

(東京・銀座)

女性は閉経のころ(50歳くらい)から、卵巣からの女性ホルモンの分泌がほとんどなくなり、女性ホルモンが出なくなると、ほてりやのぼせなどの更年期障害、骨量減少のほか、血圧が変動しやすくなり、血中総コレステロール値が上昇するなど心身に様々な変化が起これることが知られています。

同時に、今回の質問の原因となる皮膚や粘膜の乾燥もみられ、子宮、乳房、膣は委縮してきます。

性交痛は、外陰部、膣粘膜の委縮に加え、膣内の自浄作用の低下により、炎症が起きやすくなったためと考えられます。加齢現象の一つであるため、仕方がないのとらえ方もできますが、不快で困っているなら、症状を改善する治療法があります。

粘膜が乾燥して弱くなっているので、外陰部、膣へ潤いを与えることができます。

## 粘膜が乾燥 保湿剤やゼリーを



えられます。膣への保湿剤と同時に、症状の緩和の目的で性交時にゼリーなどを併用するとより効果的です。

様々な保湿剤、ゼリーが発売されていますので、薬局や婦人科で相談されると良いでしょう。

保湿剤やゼリーの効果が不十分なら、不足している女性ホルモンを飲み薬や張り薬で補うホルモン補充療法(HRT)をする選択があり、より効果的です。通常は、開始後数か月くらいで、かなり改善されてきます。

症状が改善されても、機能維持の目的で、夫婦生活がある間は、これらの工夫を続けると良いでしょう。

## からだの質問箱

